

肝炎ウイルス検査及び肝炎対策に関する調査

1 調査の目的

この調査は、県民の肝炎ウイルス検査の受検状況を把握し、もって今後の県及び国の肝炎対策の推進に当たって参考とすることを目的に実施したものである。

ことば

ウイルス性肝炎	肝炎ウイルスに感染して起こる「ウイルス性肝炎」は、自覚症状に乏しく、感染経路も様々であるため、自分自身で肝炎ウイルスに感染しているか否かを判断することは困難である。 ウイルス性肝炎は、肝硬変・肝がんへと重症化する疾患であることから、早期発見・早期治療が重要となっている。
肝炎ウイルス患者	我が国の肝炎ウイルス患者は、B型が110～140万人、C型が200～240万人いると推定されており、ウイルス性肝炎は我が国最大級の感染症といわれている。 本県は、C型肝炎の感染率が高く、肝がん死亡率は東日本で青森県に次いで第2位と、高い水準となっている。
県の肝炎対策	県では平成24年7月に「山梨県肝炎対策推進計画」を策定し、市町村、医療機関、肝炎患者等とともに肝炎対策に取り組んでいる。

2 調査期間

平成28年7月15日～9月30日

3 モニター数

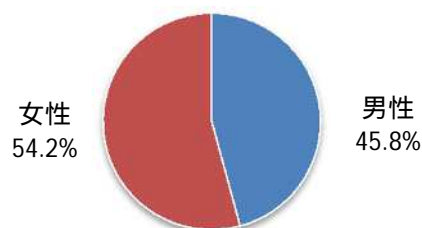
県政モニター区分	モニター数(人)	回答数(人)	回答率(%)
合計	398	332	83.1
一般モニター(郵送による調査)	330	288	87.2
インターネットモニター(電子メールによる調査)	68	43	63.2

4 モニターの回答状況

割合については小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならないことがある。

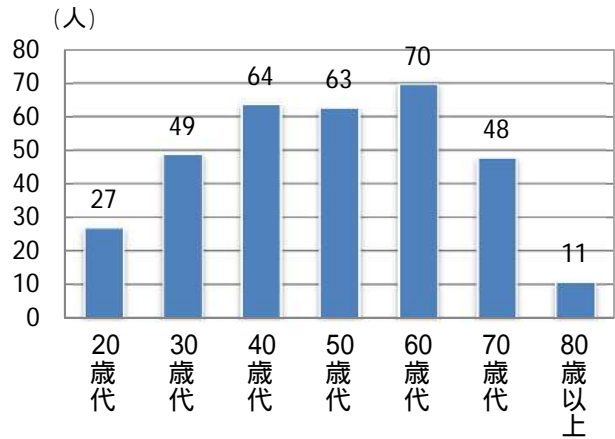
1 性別

性別	回答数(人)	割合(%)
合計	332	100.0
男性	152	45.8
女性	180	54.2



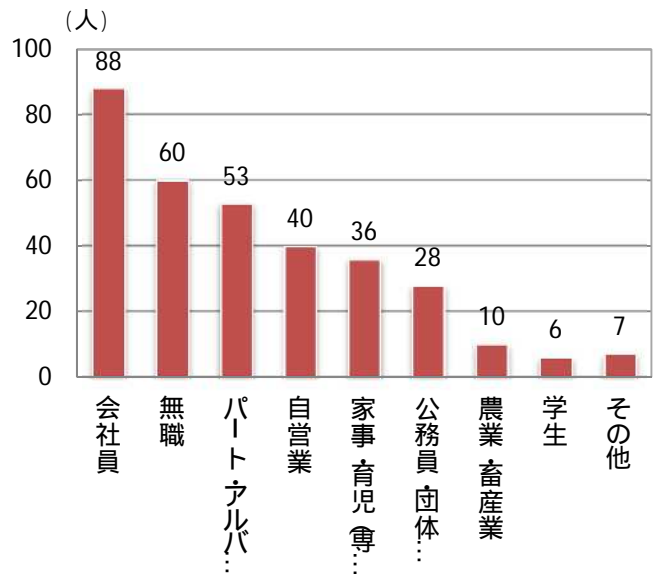
2 年齢

	回答数(人)	割合(%)
合計	332	100.0
20歳代	27	8.1
30歳代	49	14.8
40歳代	64	19.3
50歳代	63	19.0
60歳代	70	21.1
70歳代	48	14.5
80歳以上	11	3.3

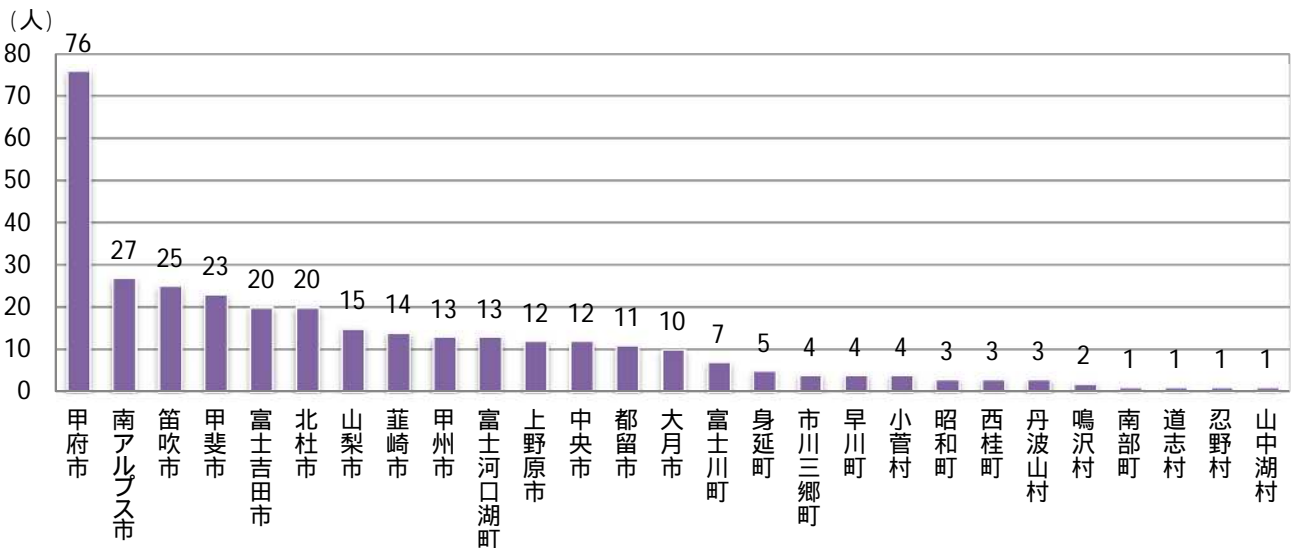


3 職業

性別	回答数(人)	割合(%)
合計	332	100.0
会社員	88	26.8
無職	60	18.3
パート・アルバイト	53	16.2
自営業	40	12.2
家事・育児(専業)	36	11.0
公務員・団体職員	28	8.5
農業・畜産業	10	3.0
学生	6	1.8
その他	7	2.1



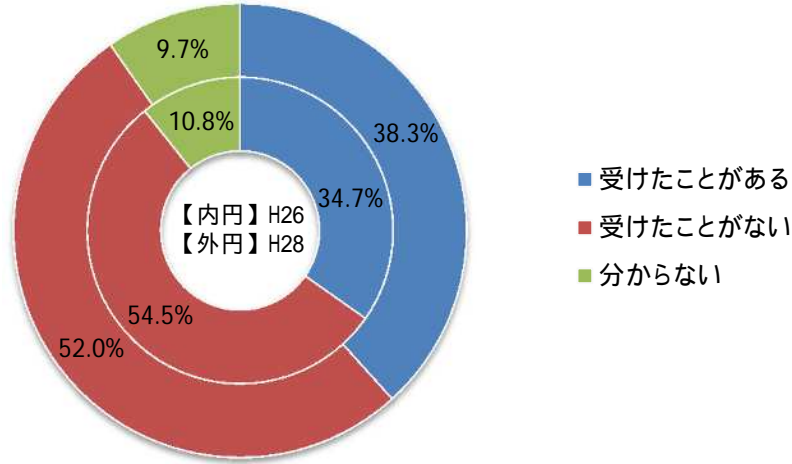
4 居住地



	合計	甲府市	南アルプス市	笛吹市	甲斐市	富士吉田市	北杜市	山梨市	韮崎市	甲州市	富士河口湖町	上野原市	中央市	都留市
回答数	332	76	27	25	23	20	20	15	14	13	13	12	12	11
割合(%)	100.0	23.0	8.2	7.6	7.0	6.1	6.1	4.5	4.2	3.9	3.9	3.6	3.6	3.3

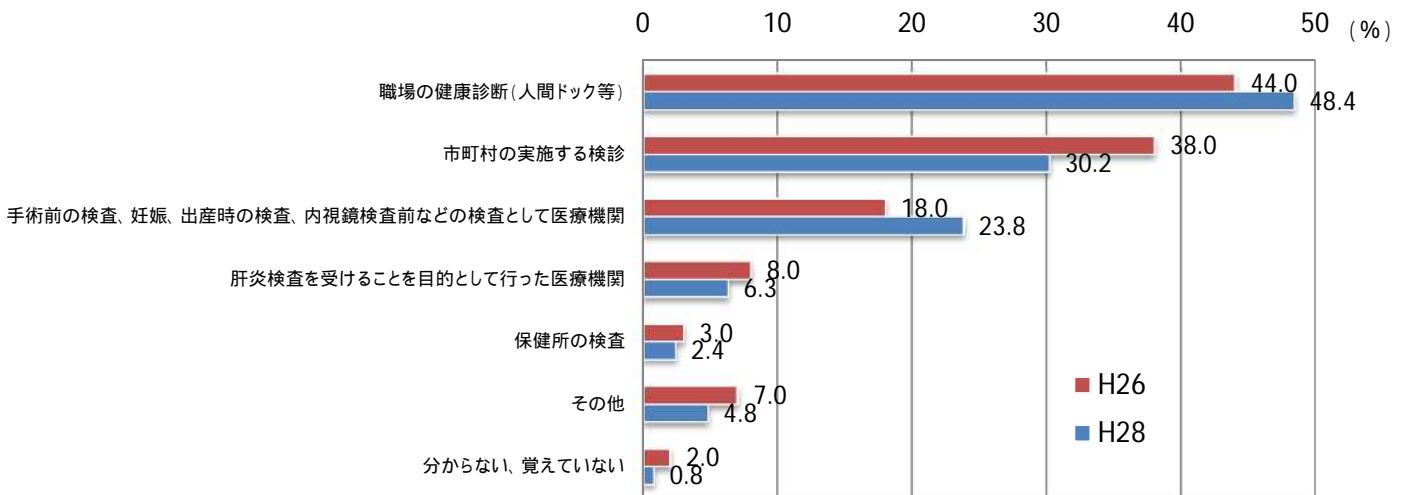
	大月市	富士川町	身延町	市川三郷町	早川町	小菅村	昭和町	西桂町	丹波山村	鳴沢村	南部町	道志村	忍野村	山中湖村
回答数	10	7	5	4	4	4	3	3	3	2	1	1	1	1
割合(%)	3.0	2.1	1.5	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3

問1 今までに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか(一つ選択)



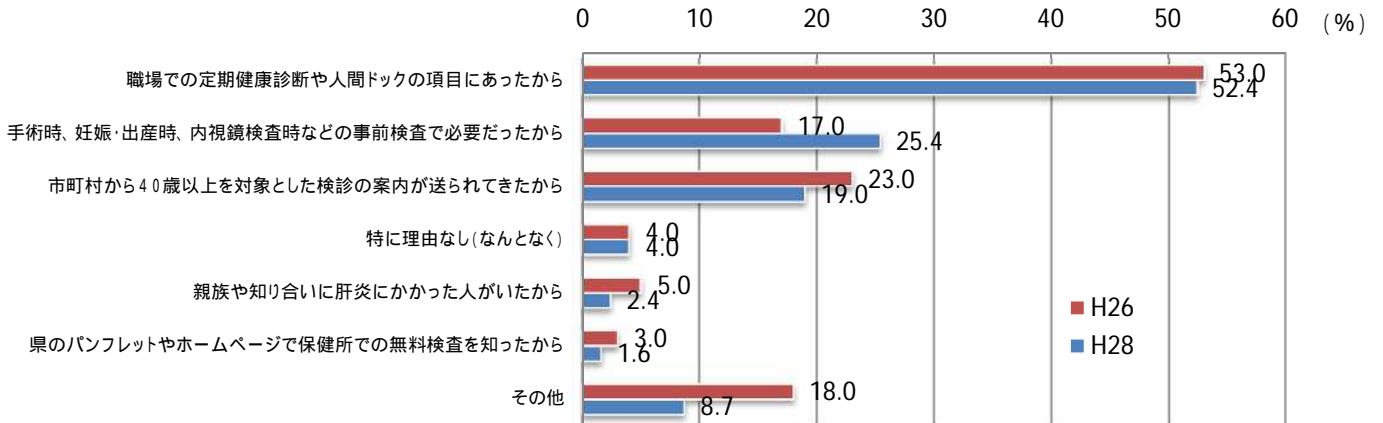
	H28		H26
	回答数(人)	割合(%)	割合(%)
合計	329	100.0	100.0
受けたことがある	126	38.3	34.7
受けたことがない	171	52.0	54.5
分からない	32	9.7	10.8

問2 肝炎ウイルス検査をどこで受けましたか(複数選択可)



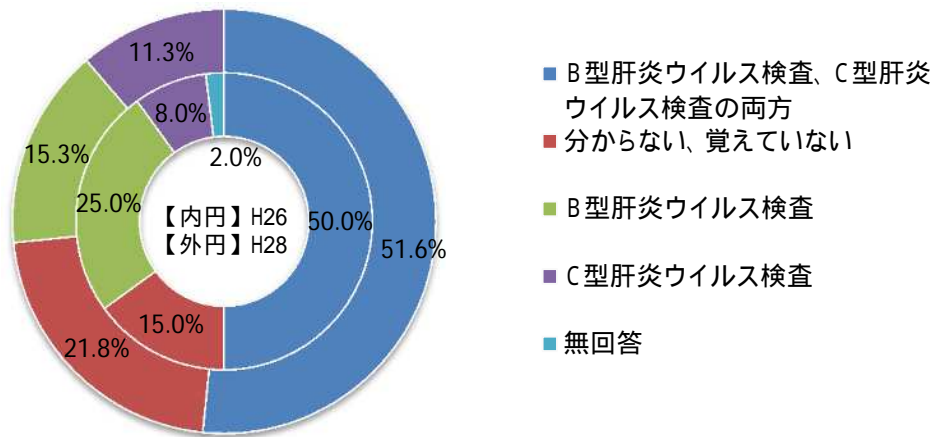
問1で「受けたことがある」と回答した者(再掲)	H28		H26
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
職場の健康診断(人間ドック等)	61	48.4	44
市町村の実施する検診	38	30.2	38
手術前の検査、妊娠、出産時の検査、内視鏡検査前などの検査として医療機関	30	23.8	18
肝炎検査を受けることを目的として行った医療機関	8	6.3	8
保健所の検査	3	2.4	3
その他	6	4.8	7
分からない、覚えていない	1	0.8	2

問3 検査を受けたきっかけはどのような理由ですか (複数選択可)



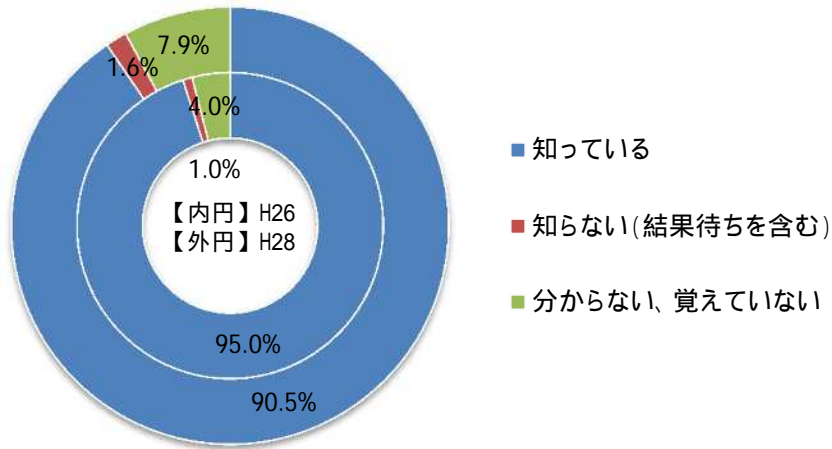
問1で「受けたことがある」と回答した者(再掲)	H28		H26
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
職場での定期健康診断や人間ドックの項目にあったから	66	52.4	53.0
手術時、妊娠・出産時、内視鏡検査時などの事前検査で必要だったから	32	25.4	17.0
市町村から40歳以上を対象とした検診の案内が送られてきたから	24	19.0	23.0
特に理由なし(なんとなく)	5	4.0	4.0
親族や知り合いに肝炎にかかった人がいたから	3	2.4	5.0
県のパンフレットやホームページで保健所での無料検査を知ったから	2	1.6	3.0
その他	11	8.7	18.0

問4 受けられた検査の種類はどの検査ですか (一つ選択)



問1で「受けたことがある」と回答した者(再掲)	H28		H26
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査の両方	64	51.6	50.0
分からない、覚えていない	27	21.8	15.0
B型肝炎ウイルス検査	19	15.3	25.0
C型肝炎ウイルス検査	14	11.3	8.0
無回答	0	0.0	2.0

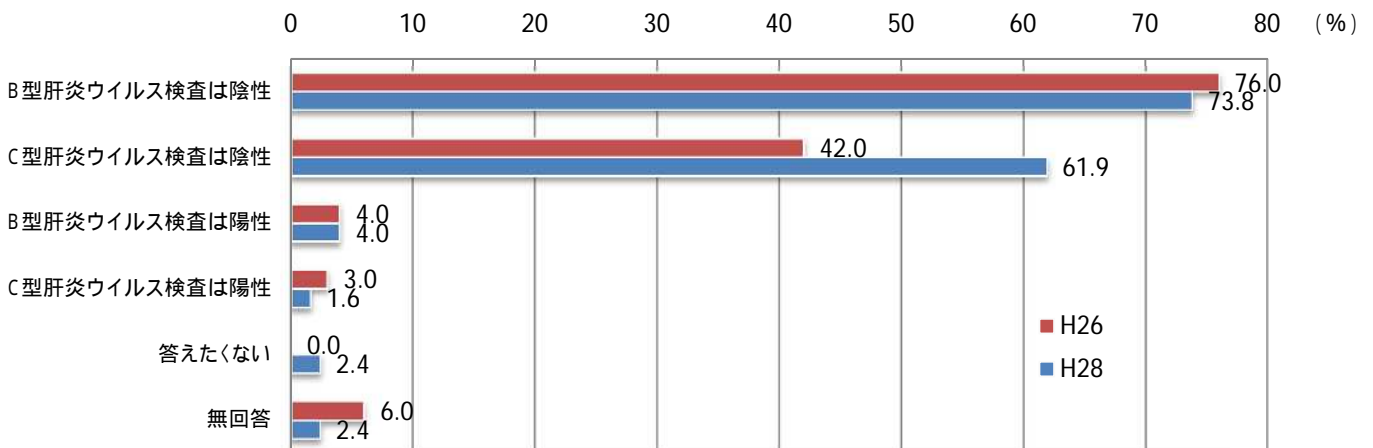
問5 検査の結果をご存じですか(複数選択可)



	H28		H26
問1で「受けたことがある」と回答した者(再掲)	126		100
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
知っている	114	90.5	95.0
知らない(結果待ちを含む)	2	1.6	1.0
分からない、覚えていない	10	7.9	4.0

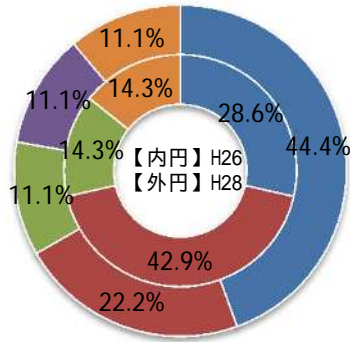
問6 差し支えなければ検査結果をお答えください(複数選択可)

問4でウ(B型、C型肝炎ウイルス検査の両方)と回答した方は両方の結果をお答えください。



	H28		H26
問1で「受けたことがある」と回答した者(再掲)	126		100
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
B型肝炎ウイルス検査は陰性	93	73.8	76.0
C型肝炎ウイルス検査は陰性	78	61.9	42.0
B型肝炎ウイルス検査は陽性	5	4.0	4.0
C型肝炎ウイルス検査は陽性	2	1.6	3.0
答えたくない	3	2.4	0.0
無回答	3	2.4	6.0

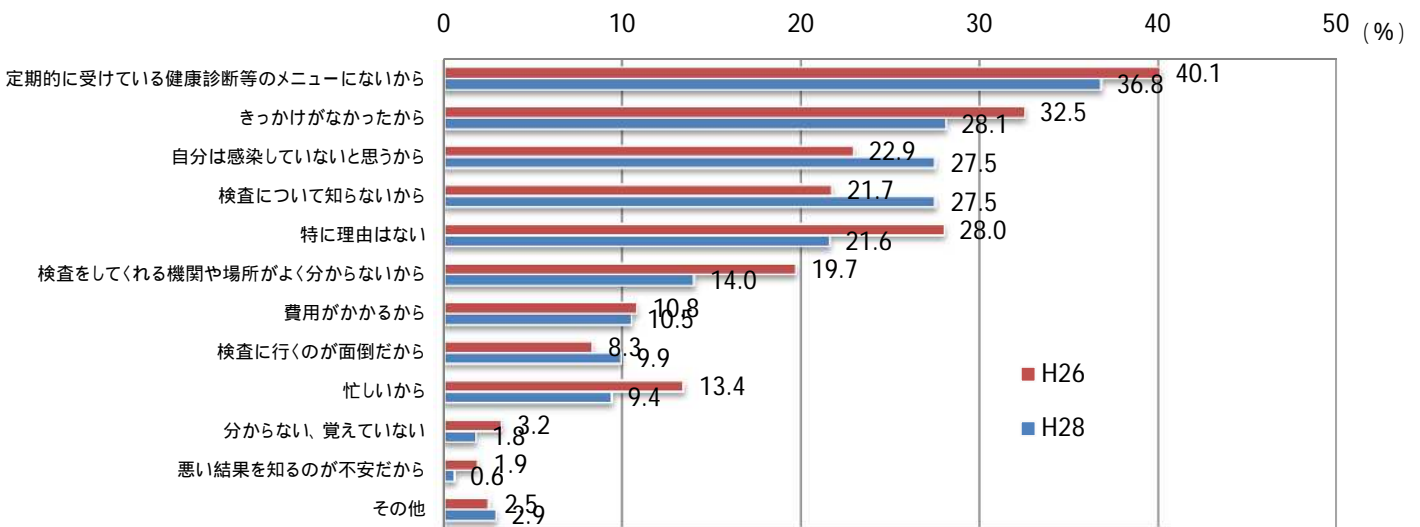
問7 問6でB型又はC型肝炎ウイルス検査で陽性と答えた方にお聞きします。結果を受けて、医療機関を受診しましたか(一つ選択)



- 受診し、現在も継続して定期的に受診している(治療中、経過観察中)
- 受診し、治癒したため、今は受診していない
- 一度も受診していない
- 受診し、治癒していないが、医師から受診を終了してよいと言われ、今は未受診
- その他

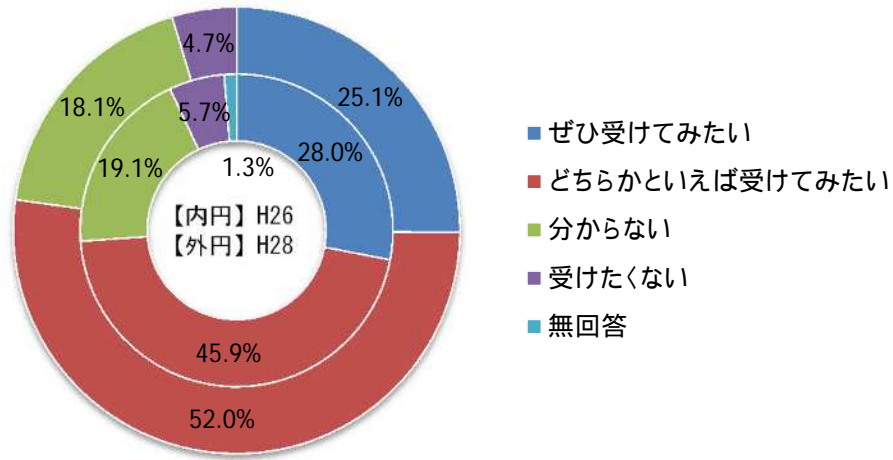
	H28		H26
問6で「肝炎ウイルス検査で陽性だった」又は「答えたくない」と回答した者の数(再掲)	9		7
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
受診し、現在も継続して定期的に受診している(治療中、経過観察中)	4	44.4	28.6
受診し、治癒したため、今は受診していない	2	22.2	42.9
一度も受診していない	1	11.1	14.3
受診し、治癒していないが、医師から受診を終了してよいと言われ、今は未受診	1	11.1	0.0
受診したが、自己判断で通院を中止し、今は受診していない	0	0.0	0.0
その他	1	11.1	14.3

問8 検査を受けていないのは、どのような理由からですか(複数選択可)



	H28		H26
問1で「肝炎ウイルス検査を受けたことがない」と回答した者の数(再掲)	171		157
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
定期的を受けている健康診断等のメニューにないから	63	36.8	40.1
きっかけがなかったから	48	28.1	32.4
自分は感染していないと思うから	47	27.5	22.9
検査について知らないから	47	27.5	21.7
特に理由はない	37	21.6	28.0
検査をしてくれる機関や場所がよく分からないから	24	14.0	19.7
費用がかかるから	18	10.5	10.8
検査に行くのが面倒だから	17	9.9	8.3
忙しいから	16	9.4	13.4
分からない、覚えていない	3	1.8	3.2
悪い結果を知るのが不安だから	1	0.6	1.9
その他	5	2.9	2.5

問9 今後機会があれば検査を受けてみたいと思いますか(一つ選択)

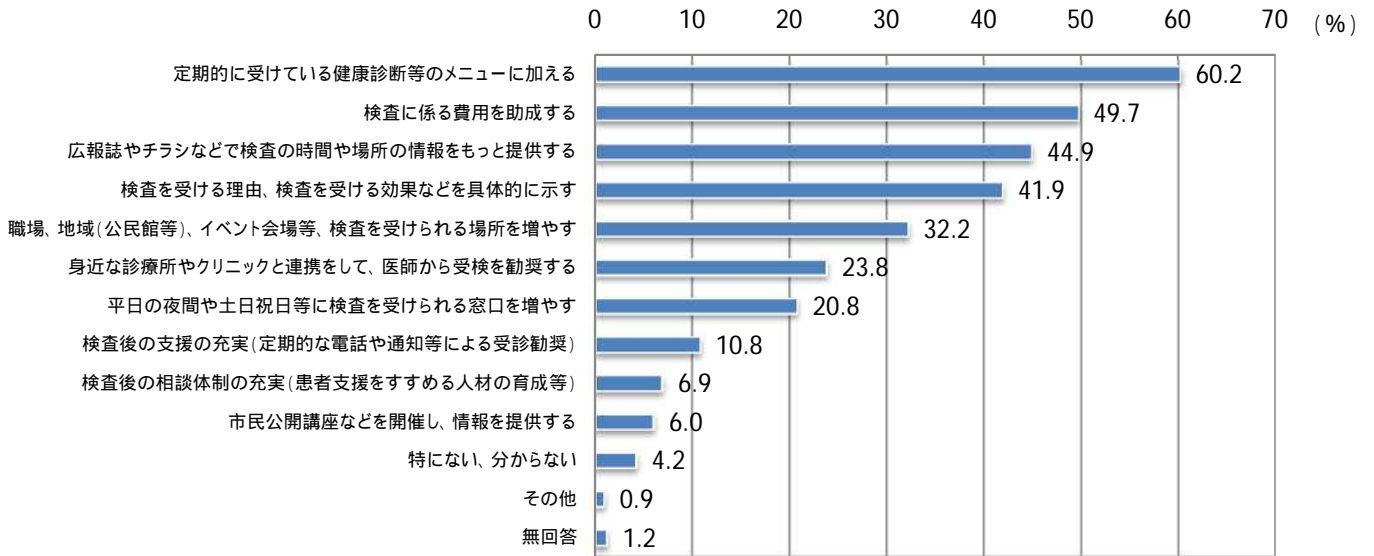


問1で「肝炎ウイルス検査を受けたことがない」と回答した者の数(再掲)	H28		H26
	回答数(人)	回答率(%)	回答率(%)
ぜひ受けてみたい	43	25.1	28.0
どちらかといえば受けてみたい	89	52.0	45.9
分からない	31	18.1	19.1
受けたくない	8	4.7	5.7
無回答	0	0.0	1.3

問10 治療を中止又は受診していないのは、どのような理由からですか(複数選択可)

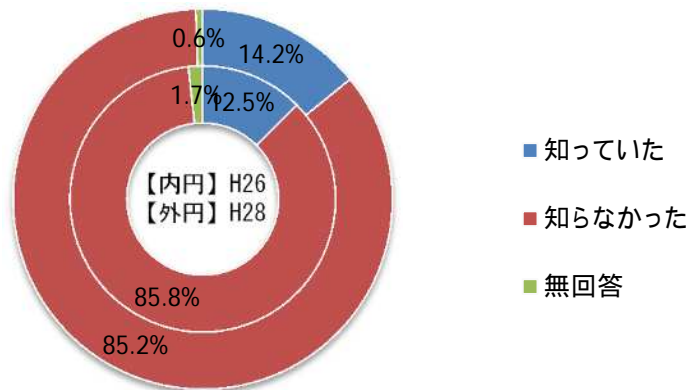
	H28
問7で「受診したが、自己判断で通院を中止し、今は受診していない」又は「一度も受診していない」と回答した者の数(再掲)	1
	回答数(人)
現在、症状はないため、受診の必要性を感じないため	1
仕事や家庭の事情で受診できないため	
受診する医療機関が分からなかったため	
近隣に医療機関がないため	
金銭面の理由で受診できないため	
病気が職場や親族に知られてしまうため	
その他	

問11 どのような行政施策があれば肝炎ウイルス検査を受けてみたいと思いますか (複数選択可)



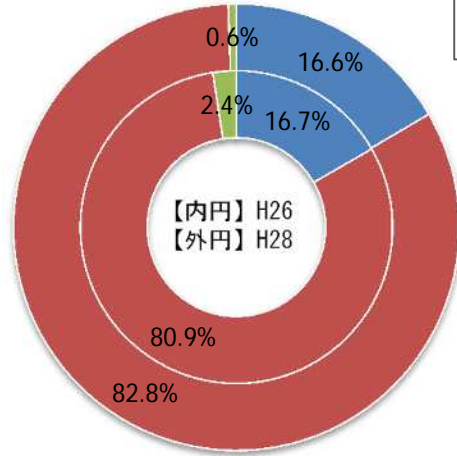
	回答数(人)	回答率(%)
全回答者数	332	-
定期的を受けている健康診断等のメニューに加える	200	60.2
検査に係る費用を助成する	165	49.7
広報誌やチラシなどで検査の時間や場所の情報をもっと提供する	149	44.9
検査を受ける理由、検査を受ける効果などを具体的に示す	139	41.9
職場、地域(公民館等)、イベント会場等、検査を受けられる場所を増やす	107	32.2
身近な診療所やクリニックと連携をして、医師から受検を勧奨する	79	23.8
平日の夜間や土日祝日等に検査を受けられる窓口を増やす	69	20.8
検査後の支援の充実(定期的な電話や通知等による受診勧奨)	36	10.8
検査後の相談体制の充実(患者支援をすすめる人材の育成等)	23	6.9
市民公開講座などを開催し、情報を提供する	20	6.0
特にない、分からない	14	4.2
その他	3	0.9
無回答	4	1.2

問12 県内の各保健所では、B型、C型肝炎ウイルスの検査を無料で実施していますが、このことをご存じでしたか (一つ選択)



	H28		H26
	回答数(人)	割合(%)	割合(%)
合計	332	100.0	100.0
知っていた	47	14.2	14.2
知らなかった	283	85.2	85.8
無回答	2	0.6	1.7

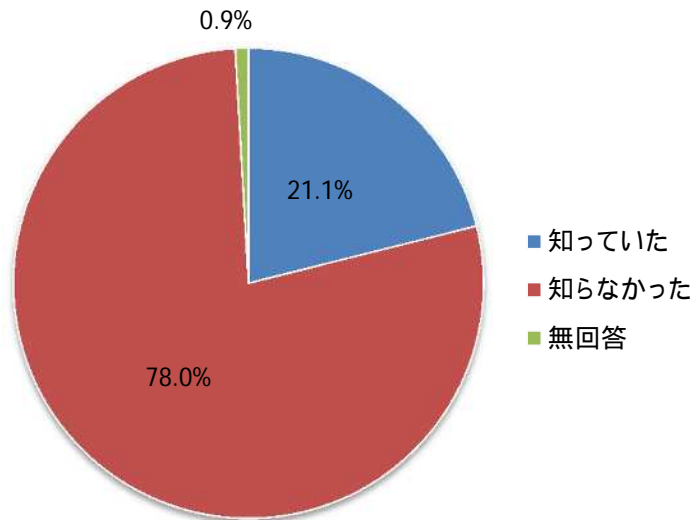
問13 県では、B型、C型肝炎ウイルスに感染し、精密検査の結果抗ウイルス療法（インターフェロンフリー治療等）が必要と診断され、治療を受けている者を対象に、医療費の自己負担分の一定額を公費で助成しています。このことをご存じでしたか（一つ選択）



H26については、インターフェロンフリー治療ではなくインターフェロン治療の助成についてたずねたもの。従って、単純比較はできないが、参考として掲載した。

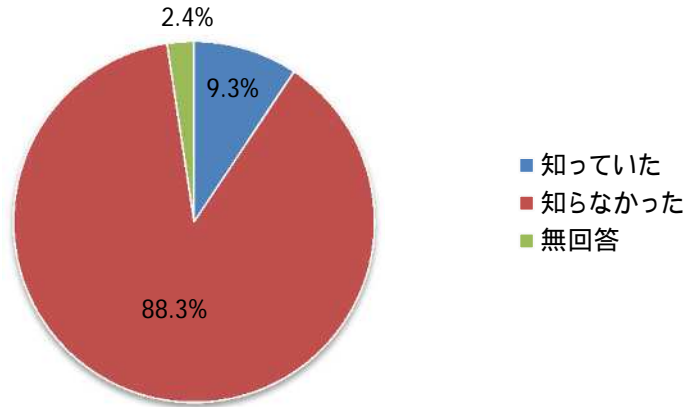
	H28		H26
	回答数(人)	割合(%)	割合(%)
合計	332	100.0	100.0
知っていた	55	16.6	16.7
知らなかった	275	82.8	80.9
無回答	2	0.6	2.4

問14 C型肝炎ウイルス性肝炎の新しい治療法（インターフェロンフリー治療）をご存じですか（一つ選択）



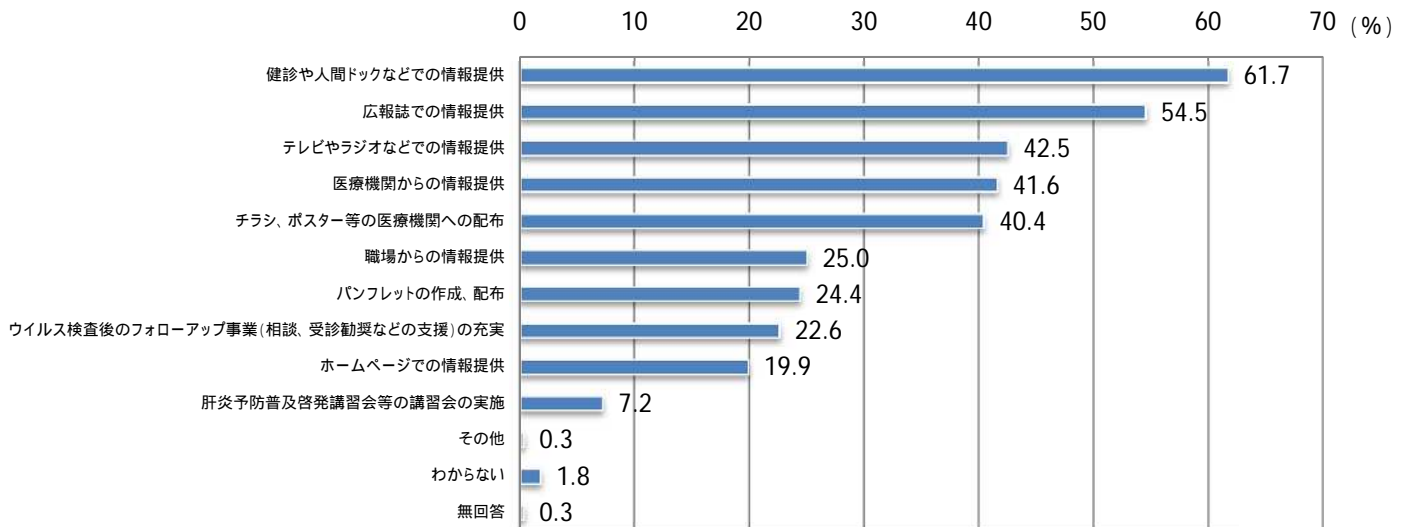
	H28	
	回答数(人)	割合(%)
合計	332	100.0
知っていた	70	21.1
知らなかった	259	78.0
無回答	3	0.9

問15 肝炎ウイルス検査で陽性となった方に対して、受診勧奨などの支援や初回精密検査費用、定期検査費用を助成する制度をご存じですか(一つ選択)



	H28	
	回答数(人)	割合(%)
合計	332	100.0
知っていた	31	9.3
知らなかった	293	88.3
無回答	8	2.4

問16 治療が必要な未治療の方へ新しい治療法(インターフェロンフリー治療)や県の医療費助成制度などをお知らせする有効な手段は、何だと思われますか(複数選択可)



	回答数(人)	回答率(%)
全回答者数	332	-
健診や人間ドックなどでの情報提供	205	61.7
広報誌での情報提供	181	54.5
テレビやラジオなどでの情報提供	141	42.5
医療機関からの情報提供	138	41.6
チラシ、ポスター等の医療機関への配布	134	40.4
職場からの情報提供	83	25.0
パンフレットの作成、配布	81	24.4
ウイルス検査後のフォローアップ事業(相談、受診勧奨などの支援)の充実	75	22.6
ホームページでの情報提供	66	19.9
肝炎予防普及啓発講習会等の講習会の実施	24	7.2
その他	1	0.3
わからない	6	1.8
無回答	1	0.3

問17 その他、本県の肝炎対策に関してのご意見や、ご要望などがありましたらご記入ください(自由記載)

合計	回答数(人)		
	計	男	女
年代計	86	39	47
20歳代	6	5	1
30歳代	10	4	6
40歳代	14	3	11
50歳代	14	3	11
60歳代	18	9	9
70歳代	22	14	8
80歳以上	2	1	1

予防関係

年代	性別	御意見
20代	男	肝炎ウイルス検査について全く意識していなかった。この機会にアンテナをはっていきたい。
	男	県立高校の保健などで教える。
	女	肝炎は、若い人は、発症しないと思っていた。
	女	若い人でも発症の可能性があるならば、若い世代にも検査等の呼びかけが必要だと思った。
30代	男	若い人は、特に関心が無いと思います。ので、たくさん情報を広めてほしいです！
	男	肝炎が重大な病気とっていない。まず感染しないと思っているから、関心も向かないし、よっぽどのきっかけがなければ検査しようと思わない。
	男	小学校の保健室のたばこの害等のポスターと並べて肝炎を周知するくらいじゃないと大人になってからだと忙しいことを理由に、検査しないかもしれない。
40代	男	B型肝炎は、一過性感染は自然治癒で完治しますが、持続性感染の場合慢性肝炎へ進行するなど、まったく知らない人がほとんどです。なぜB型肝炎ウイルスが性交ですぐ感染するということを危険視しなかったか不思議です。予防していても強い感染力があるので、もっともっと注意喚起しないと、山梨は感染率が日本一になると思います。
	男	健診の義務化 公共で費用負担
	女	無料検査の実施や医療費助成制度などがあるのは知りませんでした。
	女	肝炎ウイルスは何も理解していないし、助成があることも知らなかったのもっと情報提供していただきたいと思います。
60代	女	知らぬまに二次感染している時もあるので、まず本人が肝炎にかかっているか、知ることが必要だと思う。血液を検査する時(健診とか医療機関)に無料であるので、ついでにやってみよう、などと働きかけるのもありだと思う。
	女	肝炎ウイルスの感染経路を県民に周知徹底する事は、必要だと思います。医療機関での感染防止には、万全を期していただきたい。
70代	男	肝炎感染の具体的な経路の周知が低いように思われます。
	男	様々な情報は、小、中、高など授業の中で意識自覚を植え付けることである。
	男	私は元来、医療職であった。高学歴社会なのに無知な者が多い。もっともっと教育の中に取り入れるべきである。肝炎に限ったことではない。
	男	B型肝炎は性行為による感染がほとんど。感染ルートは 輸血・ハリ注射等 キャリアの母親から赤ちゃんにうつる母子感染で妊娠中であく約95%が出産時に感染するとか。従って広報紙やチラシ、産婦人科や助産師らと連携し、受検させることを啓蒙することが望ましい。
	女	介護福祉士として長年勤めてきましたが、肝炎患者様の苦しみをあまり理解出来ておりませんでした。自分の注意することは血液に素手でさわらないという事ぐらいの知識でした。職場での健康診断で特に言われていなかったのも肝炎検査には、わざわざ行かずこの年になってしまいました。今現在健康で過ごされていることに感謝です。

問17 その他、本県の肝炎対策に関してのご意見や、ご要望などがありましたらご記入ください(自由記載)

検査関係		御意見
年代	性別	
30代	男	肝炎ウイルス検査やその後の対応等に対する県の取り組み等知らないことが多くてビックリしています。
	女	今回のアンケートに回答するまで、肝炎ウイルス検査や、県で実施しているなど全く知らなかった。
	女	肝炎ウイルス検査を受けることが大切だと思いました。
	女	まずはこの検査があること自体あまり知られていないと思う。
	女	市の健康診断とかに入っていると目に入りやすいし検査を受けやすいと思う。
	女	検診の質問項目に肝炎の内容を入れる。
	女	医療職や検診のある為受けていますが、そうでなければ過信あって(大丈夫だろう)、受けなかったと思います。
	女	夫婦で感染もするので、自分の為にも、パートナーの為にも、検査等は必要だと思います。
40代	女	若い人の検査をしやすくしてはと思います。
	女	自分は肝炎ウイルス検査を受けていましたが、実は人間ドックの項目の中にあっただろうかも自覚せずに行きました。
	女	気になる症状などなければ肝炎の事などまったく気にしないのが普通だと思います。気づかずに重くな症状になってしまう前に多くの人が検査を受けようと思うような広報活動が大切だと思います。
	女	女性は妊娠時に検査が受けられますが男性はなかなか機会がないそうです。
	女	医療費の助成もあるし、無料検査のことなど幅広くアピールできるとありがたいと思います。
	女	職場で毎年健康診断を受けますが、肝炎ウイルス検査の項目があっただろうかも分からない状況です。もっと真剣に受診しなくてはいけないと反省しています。きっかけをいただき、ありがとうございました。
	女	健診のメニューに加えるのも一つの手段だと思います。
	女	肝炎ウイルス検査に興味がなかったので近く検査をうけます。
50代	女	身体に異常がなければ受けようと思いません。
	女	検診のメニューの中に入れてもらいたいと思います。
	女	特別な機会を持って検査を受けるというのではなく、何かしら医療機関を受診するおり、希望すれば無料で検査してもらえれば、それほど構える事なく受検者数が増えるのでは。
	女	まず市町村の検診で、オの人は全員、検査をできるようにしてしまえばいいと思う。それ以外は、予約で
	女	肝炎ウイルス検査を受けることを推奨していることを全く知りませんでした。
	女	学校で(子どもを通じて)プリント等で知らせてくれると目にするのができたのでは・・・と思いました。
60代	男	検査の必要性、推進のPRが少なくほとんど目にした事が無い。チラシ、医療機関、定期検査でのPRがもっと必要と、思われる。
	男	健診で(公)肝炎ウイルス検査を行うのはコストが高いので、現状では肝機能(AST、ALT、LDH、 -GTP)等が限界と思われる。
	女	まず健康診断を受ける人が多くなるのが大切と思う。健診が近場で受けられ、その項目の中に肝炎検査が入っていればよいのではないのでしょうか。
	女	治療に費用がかかる・・・、その前に防として、全員が検査を受けられるシステム作り、特に健康診断の項目に必ず入れることで、全員が受けられると思います。
	女	また健康診断、人間ドックの助成金の増額。
	女	一人一人にいい検査ができるように。
	女	健診などを積極的に受けてない人(日頃健康に関心のない人)への情報を種々な方法で発信していくことが大切と思われます。
70代	男	県民に広く肝炎ウイルスの恐ろしさをテレビ・ラジオ等で情報提供し無料検査が出来る事を周知することが必要である。
	男	1972年から1988年までの機関に血友病以外の病気(新生児治療、肝硬変や劇症肝炎、消化器系の病気、交通事故での手術、出産時の大量出血など)で非加熱血液製剤の投与を受けた患者がC型・B型肝炎に感染している可能性が高いとして、当時非加熱血液製剤を使用していた医療機関名を公表しているといわれるので、これを根拠として、受診させる事が有益か？
	女	この年になると日々何事もなく生活出来る事がよるこびです。いろいろ検査して自分の病気を知ってしまうとその事ばかりを考えて暗くなってしまいます。しかし、県民の為にいろいろして下さる事はすばらしい事だと思います。もっと皆様が検診にさそい合って行ける用、自治会単位に落して検診日を決め、さそい合って行ける様にしたらいかがでしょうか。
	女	私のようなアレルギー薬品によるアレルギーのため、かかり付けの医者があまりすすめません。本当の所受けたいと思っています。
	女	完治する病気になってきたということなのでこれからの方はぜひ機会を作って検査することをおすすめします。
女	全ての医療機関に来院された方々に(未検査の方)、検査の重要性を話して貰う。(医師は専門外の検査等についての規制はあるのでしょうか。)	

問17 その他、本県の肝炎対策に関してのご意見や、ご要望などがありましたらご記入ください(自由記載)

フォローアップ・支援体制関係		
年代	性別	御意見
20代	男	祖母がC型肝炎でしたが、新しい治療法により快方に向かっていますが、助成制度などをもっと広く知らしめることにより、肝炎からもっと人を救えるのではないかと思います。
	男	肝炎対策としては、やはり、早期発見・早期治療のため、周知徹底を行うことが大事であると感じた。
30代	女	・感染原因をもっと広めて、自覚がなくても心あたりがある人に検診を進める。
	女	医療職にありながら、県の助成等は全く知りませんでした。
40代	男	私は、手術や輸血など、した事が無いので、肝炎とは、無縁だと思っていたので、検査の無料や医療費の助成など知らない事がたくさん有りました。
	女	20年前の検査で、HBs抗原陽性と知り、県立中央病院へ行ったのですが、特に何の治療もなく、終了になってしまいました。その後、特に気にもせず、今に至っていますが、もう一度検査を受け直してみようと思います。
50代	女	肝炎ウイルスの事をもっと知ってもらう為に公報や医療機関などで情報を提供して欲しいと思います。
	女	感染に関する偏見が問題になった話題が以前あったように記憶していますが、現在は正しい情報のもと行われている事が、前提です。
	女	知り合いでC型肝炎を患い、都内の大学病院に通院している方がおります。電車やバスの乗り継ぎで大変だと聞きます。
	女	郡内に専門医が、いて下さればと思います。
	女	自分自身も、肝炎ウイルスのことについての知識があまりなく、新しい治療法についても全く知りませんでした。
	女	検査や、その後のフォローアップ事業について公報などで特集など組んでいただければ、多くの人の目にふれることになると思います。
	女	母が2、30年前にインターフェロンで入院治療をしました。副作用が強く、とても辛そうでした。完治したかも不明です。そういう、昔治療して、あきらめたような人にも、もう一度再検査と完治する新しい薬で治療できるよう、推進して頂きたいです。
60代	男	私自身がC型肝炎治療を行い助成を受けました。おかげで治癒しましたが入院後の通院が長い期間であったために大変でした。近くの医療機関で夜間(夕方以降)の時間帯に治療できればもっと多くの方が利用するとも思います。
	男	肝炎ウイルス陽性者(キャリアー)を見つけるには、健診や人間ドックから情報提供が必要。その陽性者に今後必要な対応のパンフレットを送る。
	男	新しい治療法に関しては、なんとなく情報として、理解していたつもりですが、問14の説明のような、従来の治療法と、新しい治療法のちがいを、わかりやすく情報提供して下さい。
	男	定期健診や人間ドックの基本受診項目に入れたらどうですか。
	女	とにかく、いろいろな方法で患者、親族の検診を通し、異常の早期発見、早期治療を実施しますと本人家族の幸せにつながると、地域の人々になげかけてやります。
	女	肝炎健診受診の一括管理ができる方法の確立 たとえばマイナンバーなどを活用 個人情報なので難しいと思うが、シークレットが守れるなら一考とも思うが。
70代	男	相談窓口等と言えるかわかりませんが、肝炎ネット、肝臓情報データベース、患者さんの集まりのサイト、全国肝臓病患者連合会等があり、これらから疾病患者の情報は得られるものでしょうか。
	男	県が行っている事業は良いと思うが、直接対応する医療機関の対応が不十分なことがある。直接接する機関の対応の改善を望む。

問17 その他、本県の肝炎対策に関してのご意見や、ご要望などがありましたらご記入ください(自由記載)

その他		
年代	性別	御意見
20代	男	年齢的なこともあり、あまり関心をもっていなかった。
	男	今回のアンケートで新たに得る情報が多かった。
	男	広く周知をしてほしいと感じた。
30代	男	もっともっと様々な場で知ることができると良いなと思うと同時に、自分達も肝炎に対して意識して情報を集めないといけないと思いました。
	男	医療機関、薬店、薬局等の場所に、ポスター等の掲示物で告知してもらえば良いと思う。
	女	何歳くらいの方がかかりやすいのか、男女比等興味をもったが、全く知らない。広報活動を期待します。
	女	肝炎ウイルスの感染者が大勢いることや、感染すると重症化することもあることが、少しわかりました。
	女	肝炎ウイルスに対して、自分がとても無知だなと思いました。
40代	女	このような情報をたくさんの方が知り、検査を早くたくさんの方が受けられれば、重症化する人がへり、医療費もかからず、会社や国の負担もへるのではないのでしょうか・・・
	女	今回、初めて知ることが多かったので、今後は関心を持ちたい。県でもいろいろ対策を実施してくれているので、ありがたいことだと思った。
	女	もっと広く認知されるとよいと思った。
	女	山梨県がC型肝炎や肝がん死亡率が平均よりも高いと初めて知りました。
	女	肝炎という言葉はよく耳にしていますが本調査で詳しく知ることができました。
	女	広報誌などはあまり読まれていません(マンションの郵便受けに配布されたものはそのまま郵便受けの横の不要紙入れに捨てられているのをよく見ます。)。医療機関や職場などで、直接情報提供されないと、なかなか周知しないように思います。
	女	知らないことばかりでした。何が危険なのかどうすればいいのか、詳しく知りたいと思った。
50代	男	勉強不足ですみませんでした。
	男	県のホームページは、必要な県民は、自分から見て調べるが、対象にならないと、ホームページを見る人が少ないと思う。
	男	この様なアンケート調査も肝炎対策についての知識を知るきっかけにもなりました。
	女	新聞に県の取り組み、状況等の記事をのせる。
	女	夕方のニュース番組等で知らせる。
	女	市町村の広報誌に現況をのせる。
	女	私は今回のアンケートをする事により、相談窓口や検査を受けられる場所を知りましたが、知らない県民は多数いると思われますので、もっと幅広く広報活動を行った方が良いと思います。
	女	ポスターなどでは、あまりじっくり見ないと思います。
60代	男	スマートフォン等での情報発信。
	男	肝炎に関する知識が乏しいので、今後、関心をもって対応したい。
	男	情報提供を多めに
	女	お疲れ様です。健康に注意しつつ定期的な検診を行っていきます。そして少しでも元気多幸を築いていきます。
	女	身内にこのような病気の人がいないと、なかなか肝炎ウイルス等などはあまり考えないので、いろいろな情報を聞きだせるようにしたいと思います。
	女	身近に肝炎になった人がいなくて、情報が乏しい。もっと情報を身近に感じるチャンスがあると良いと思う。

問17 その他、本県の肝炎対策に関してのご意見や、ご要望などがありましたらご記入ください(自由記載)

その他		
70代	男	肝炎にかかった人が回りにいないのであまり関心も無く、医師(毎月かかる)からも検査の話も無いのでほとんど無関心だった。B型肝炎140万人C型240万人と多勢の数字に改めて驚きました。次回検診の時に医師に話してみたいと思っています。アンケートで肝炎の事を知り、良かったと思いました。
	男	私現在肝炎は異常がないので関心がなかったのですが、このアンケートで種々のとりくみをして下さっている事に感謝です。
	男	健康第一、徹底した広報活動の展開
	男	肝炎に関する知識がありませんでしたが、このアンケートで県での取り組みを知りました。さっそく検査を受けようと思っています。
	男	その病気になって、行政の助成あるいは身近での広報とかの情報に接しようと思いますが、健康であるう人々に検査等呼びかけても、むずかしいかなと思います。
	男	今まで周囲に感染している人がいなかったため、あまり関心がなかった。
	女	毎日病院に通院している(腎)、待ち時間にポスターなど、細かく内容が貼って有り読んでいます。参考になります。
	女	この資料を保管しておき何かの折に確認したいと思います。
	女	友達2人が肝炎治療(インターフェロン治療)を受けたり、助成制度を受けて治療を行うなどの状況を聞いておりましたので知っていましたが、日々多忙の中、それへの意識を向ける機会が少ないのかも知れません。
	女	肝炎に関しては、深く考えた事はありませんでした。近親者も今のところかかったのを聞いていないので、ガンほど注意して検診しませんでした。自分には関係ない、大丈夫と思い込んでいました。が、この調査で何百万人もの感染者があると知り、肝臓が気になりました。大変な病気なのに日常余り話題に出ないのはどうしてなのか考えました。かかりつけのお医者様も肝炎の件は話されないし、何かぬるま湯につかっている気持ちです。しかし血液が大きくかかわっている事だけはっきり致しました。今日も縫い物をしていて針で指を突き、血が出ました。チリ紙で止血めをしながら捨てる時これは大丈夫、でも検査をしてみようと思いました。いろいろ気付かせて頂き有り難うございます。
80代	男	県内医療機関と県が連携し、肝炎対策に必要な情報の共有に努め、患者の無知による他者への感染拡大防止に尽力する必要がある。治療に対する経済的な負担軽減に貢献した県の援助策は、非常に有益な施策として評価できるので、県民への周知を図るためにも、あらゆる情報媒体を活用すべきと思う。情報伝達として、テレビ・ラジオも有効な手段であったが、旧態化も認められるので、現代のネット社会にマッチした、SNS等の活用も検討したらいかがでしょうか？今や私達高齢者でも、テレビ離れが進んでいます。これからを担う若者のテレビ離れは、それ以上と思われま。県の素晴らしい施策をアピールするためにも、広報媒体の再検討をお願い致します。